



東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃんNews



令和8年1月15日発行第11号
多摩市聖ヶ丘1-17-1
電話 042-374-8111
発行者 校長 西田良児

新年を迎える

校長 西田 良児

新年になりました。明けましておめでとうございます。皆さんの冬休みはいかがでしたか？本校に関わる皆さんにとって今年が良い年ありますように願っています。

さて、いよいよ3学期。3学期は1月から3月までの期間ですが、よく1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われます。「1月」はお正月や挨拶回りに忙しく「行ってしまう」ように過ぎ去る月。「2月」は28日までしかないので、余計に短く感じるので、まさに「逃げる」が如し月。

「3月」は年度末でとても忙しく「去る」ように過ぎる月、ということでしょう。この期間は、とても忙しい時期となります。「もっと時間がほしいのに、日がどんどん過ぎていく」となるでしょう。ぜひ、3学期の大まかな計画を立て余裕をもった3学期を過ごすようにしてください。

特に、高等部3年生の皆さんにとって卒業まであとわずかとなりました。残された学校生活が有意義なものになることを期待しています。

今年もどうぞ多摩桜の丘学園の教育に御理解と御協力のほどよろしくお願ひいたします。

ユネスコスクール加盟まで振り返って

本校での社会貢献活動はおよそ20年以上前までさかのぼります。平成15年肢体不自由教育部門中学校部で「誰かのために、社会のために自分たちにできそうな活動」として、書き損じはがきを切手に換算し「ダルニー奨学金」に寄付することに着目、社会貢献活動を始めました。その活動は、肢体不自由教育部門で継承され引き継がれています。一方、知的障害教育部門では、平成29年より高等部生徒が地域密着の活動として、地域のスーパーマーケットで買い物した高齢者の方の荷物を自宅まで届ける活動「さくら運送」がスタートしました。この活動も住民の方から評価を得て、地域の一員として役割を果たすことになっています。その後、東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシーとして「おもてなし」をテーマに「人に喜んでもらう活動」が各部門で行われました。さらにこれらをSDGsに関連させ、「『持続可能な社会』を目指した『自分たちにできること』」をテーマにし、「ユニセフ共同募金」「エコキャップ・インクカートリッジ・ベルマークの回収」「コンポスト」などの活動に発展してきました。

文部科学省によるとESDとは、「現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新しい価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指し行う学習・教育活動」とされています。本校が行ってきた、「社会のために自分たちにできそうな活動」は、SDGsと関連させることでESDに深くかかわるものと整理でき、それぞれの部門・学部で自分たちができる「地域の人たちと一緒に活動すること」や「家族や仲間、地域や社会のためにできること」を考え行動する教育活動を本校のESDとして位置付けました。そして、そうした活動に価値をもたせ、継続させることが本校の使命であると認識し、その象徴としてユネスコスクール加盟と目標に定めました。

本日、ESDについて児童・生徒向けのリーフレットを配布しました。ぜひ御覧いただき、御家庭でも話題にしていただければと思います。

ユネスコスクールなったからといって特別新しいことを始めるわけではありません。各学部で行っている児童・生徒が自分たちで考え「地域と一緒にやりたいこと」や「人の役に立ちたいこと」、「社会に貢献したいこと」を大切にした教育活動をより長く継続することを重点に取り組んでいきます。